

## 水資源機構 入札等監視委員会 審議概要

|           |  |     |      |
|-----------|--|-----|------|
| 開催日及び場所   | 平成29年6月15日(木) ランド・アクセス・タワー 22階                             |     |      |
| 委員        | 角田 茂(学校法人参事) 西谷隆亘(大学名誉教授) 中村好男(大学教授) 篠原焔夫(弁護士) 栗田 誠(大学院教授) |     |      |
| 審査対象期間    | 平成29年1月1日～平成29年3月31日                                       |     |      |
| 抽出案件      | 総件数  | 5 件 | (備考) |
| 工事        | 一般競争入札   | 1 件 |      |
|           | 公募型指名競争入札  | 0 件 |      |
|           | 通常指名競争入札   | 1 件 |      |
|           | 随意契約   | 0 件 |      |
| 建設コンサールトン | 公募型プロポーザル・簡易公募型プロポーザル                                      | 1 件 |      |
|           | 公募型指名競争入札・簡易公募型競争入札  | 0 件 |      |
|           | 標準プロポーザル   | 0 件 |      |
|           | 一般競争入札   | 1 件 |      |
|           | 通常指名競争入札   | 0 件 |      |
|           | 随意契約(競争性のある)   | 0 件 |      |
|           | 随意契約(特命随意契約)   | 0 件 |      |
|           | 補償契約   | 1 件 |      |

### 1. 委員からの意見・質問、それに対する回答等

#### (1) 一般競争入札(工事) 【豊川用水二期東部幹線併設水路赤羽根下流工区工事】

| 意見・質問   | 回答  |
|---|---|
| ・工事技術的難易度評価表の項目のうち、技術的難易度がBとなっている項目について、難易度Bとした理由はなにか。                              | ・生活道路を工事用道路として利用しますので、地元との調整はもちろんのこと、交通規制、資材を搬入するときの規制等もかかってくるためB判定としました。関係機関対応についても、道路管理者、警察などとの調整が出てきます。また、安全管理についても、夜間作業もありますし、最小断面での施工となるということもあり、B判定としました。             |
| ・低入札調査の労務者の具体的供給見通しの記載について、これは員数を少なくしているということなのか、単価を安く見積もっているということなのか、それともその両方なのか。  | ・工種における積算の員数に差があったということです。調査対象者にヒアリングで聞き取りしたところ、過去の同種業務で同じような人員配置によって施工できていることが確認できたので、問題ないと判断しました。記載内容に単価とあるのは、1つの単価の中に資材や労務というものがあり、労務の構成員数に差があったため、結果として単価に差が生じたということです。 |
| ・この併設水路はトンネルを新しく造るということだが、工事概要には掘削した土砂等の処理費用は入っているのか。また、掘削した土砂の処理は具体的にどういう形で行われるのか。 | ・資料ではトンネル工に含まれています。掘削した土砂については、あらかじめ土捨て場を調整して決めて、現場からそこまで搬出します。   |

(2) 指名競争入札（工事） 【室生ダム流木塵芥処理工事】

| 意見・質問                                  | 回答                             |
|--|--------------------------------|
| ・毎年発注しているということだが、過去にはどのような業者が落札しているのか。 | ・地元業者になりますが、毎回同じ業者ではありません。     |
| ・2回目の入札を10日くらいの日数をあけて行ったのは何か理由があるのか。   | ・本件は郵便入札であり、入札書の提出期間を確保したものです。 |

(3) 簡易公募型プロポーザル（土木関係コンサルタント業務）

【小石原川ダム地域経済動向分析業務】

| 意見・質問   | 回答   |
|---|--|
| ・落札率が100%となっているのはどうしてか。   | ・今回の見積徴取は、1回目が予定価格超過、2回目が同額となりましたので、結果的に同額であったと考えています。   |
| ・予定価格というのは、発注者側で設定するものではないのか。何か教わりながら決めている感じがする。                            | ・今回の業務は、歩掛が明確にされている業務ではないため、提案者に参考見積を求めて、それをベースに妥当な金額を設定しています。   |
| ・機構の他施設で同様の調査を実施しているケースはあるのか。   | ・機構で今までにやった例はありません。  |
| ・こういう調査は、経済分析なので、技術的なコンサルタントではなく、経済系のシンクタンクや経済系のコンサルティング会社に頼まないといけないのではないか。 | ・ダムで実施した業務と工事は、全て土木技術的なものであり、当然、工事の内容や、元請から下請への資金の流れ、どのような形で資機材が使われているのか、というところの土木技術的、要望も含めて分かっていることを重視して、今回はダム関係にある程度実績がある河川、砂防系の技術的なコンサルティングのほうを資格要件としました。 |

(4) 一般競争入札（土木関係コンサルタント業務）

【高周波衝撃弾性波法を用いたコンクリートダム調査手法検討業務】

| 意見・質問   | 回答  |
|---|---|
| ・業務概要の中に既往の調査分析結果とあるが、これは総合技術センターがこれまで調査してきたものか、それともこれまでも似た発注をしたことがあるのか。        | ・基本的には今回が初めてというわけではなく、これまでの総合技術センター及び機構の現場で実施した調査結果をしていただくということも含んでいます。 |
| ・この方法による調査手法というのは、今回受注している業者とずっと一緒にやってきたということなのか、それともその時々で異なる業者に発注しているということなのか。 | ・一般競争入札なので、今回の業者が実施しているものもあれば、そうではないものもあります。                            |

**(5) 補償契約 【発電所の廃止に関する補償契約】**

| 意見・質問  | 回答  |
|--|---|
| ・売買の対象となる実測面積と登記簿上の面積が大きく違う。                                 | ・山林に関しては、登記と実測が大きく異なるケースはままあります。  |
| ・取得用地が、奇妙な形で分断されて取得されているが、なぜこういうふうに分断するような形で取得しなくてはいけなかったのか。 | ・今回取得した用地の目的は、ダム本体の用地と、ダム上部に付け替える付替林道に係る用地取得です。用地平面図で少し細長くなっている部分が道路用地で、その道路がつながっている部分がダム本体のための用地となります。 |

**2. 委員会による意見の具申又は勧告**

なし

**3. 問い合わせ先**

埼玉県さいたま市中央区新都心1-1番地2

ランド・アクシス・タワー内

電話 048-600-6500

水資源機構入札等監視委員会事務局

技術管理室契約企画課長 田村 三明 (内線 2251)

技術管理室担当課長 足達 謙二 (内線 4631)

用地管財部用地補償課長 杉浦 正人 (内線 2331)